

餌づけについて



1. 給餌のプラス面

- (1) 鳥獣を保護する目的で行われる給餌
傷病鳥獣が怪我などから回復するまでの間の給餌
タンチョウなど生息数の少ない鳥獣に、餌がなくなる冬期間などに限って行う給餌
- (2) 庭やベランダに餌台を設置し野鳥を呼んで楽しむなど野生生物に親しむ喜び。特に小さな子や障害や疾病を持つ方への安らぎは無視できないほど大きいものがある。

2. 給餌のマイナス面

- (1) 人に依存し自ら餌をとることができない個体の増加
- (2) 自然には無い様々な添加物等の成分が含まれる餌の捕食により、健康を害する
- (3) 餌付けに依存し、本来の渡りや移動ルート・時期が狂いその個体の死滅に繋がる
- (4) 一部の種のみが増加し、生態系のバランスが乱れる
- (5) 餌付け場所等への不自然な鳥類の集中化により、人間生活や生息の環境が悪化
- (6) 感染症の発生や拡散
- (7) その国には無い穀物の種子を餌とする事により、外来種の植物が勢力を増す
- (8) 人間への慣れから警戒心が薄れ、天敵から襲われやすくなる



3. 給餌の種類

- (1) 直接的餌づけ
パンくずや小鳥の餌（安価な外国産穀物の種）、ワームなどを餌として与える。
- (2) 間接的餌づけ
稲刈り後、二番穂を残して冬を越し、カモやハクチョウの餌を残す。湖岸・河岸をコンクリート堤防だけで無く、葦原を設け生物の多様性を育む。

4. 餌づけに関する指針

- (1) 直接的餌づけの回避
基本的に「給餌のプラス面」で述べたような緊急の場合や、マイナス面より遙かに大きな効果が期待できるごく一部の場合を除き、直接的餌づけは避けるべきであろう。
- (2) 広く長期的な視野で間接的餌づけの方向へ
もし餌づけを考えるならば、目の前に見えるものだけで無く、広く生物全体のつながりや長い時の流れも考慮に入れながら、多くの人の知恵と努力を結集して間接的餌づけを意識していくのが良い。
※野鳥撮影のための、その場限りの餌づけなど、すべきでは無い。

<参考>

- バードファン フィールドマナーから
<https://www.birdfan.net/bw/manner/kyuji.html>
- 北海道庁 環境生活部 環境局自然環境課 安易なえづけはやめましょう
<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/skn/sizenhome/ezukebousi.htm>
- 宮崎学 「森の動物日記」より
<https://fireside-essay.jp/miyazaki/shika/670.html>